

2015年11月19日 千葉大学アカデミック・リンク・センター 1棟1階コンテンツスタジオ  
千葉大学アカデミック・リンク・セミナー/ALPSセミナー  
「大学の新しい学修支援：ICUにおけるアカデミックプランニング・センターの事例から」  
参加者アンケート集計結果

当日参加者数： 45名（アカデミック・リンク・センター・附属図書館関係者を除く）アンケート提出数： 32件

千葉大学アカデミック・リンク・センターでは、「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ『考える学生』を育成することを目的とし、デジタル時代における大学の学習教育環境の改革に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・メジャー選択の具体的イメージ
- ・アドヴァイジングの具体的内容
- ・ICUのリベラル・アーツ教育についてよく分かり、非常に共感する部分が大きかった。私自身の卒業大学（学部）がレイトスペシャライゼーションを採用しており、幅広い科目群から自ら学びを採択していくという類似が多かったからだと思う。
- ・教員と職員の信頼関係と職員自身の役割の認識、向上心が重要だと感じました。
- ・IBSのような組織の構想の前に「アドヴァイジングとは」から伺えたのは大切な機会でした。さらに勉強が必要と感じました。
- ・学生が動くまで、スタッフはじっと我慢をして待つことで自主性を育てる。
- ・アカデミックアドヴァイジングという領域があり、NACADAという組織があることが発見でした。
- ・時宜にかなった話をお聞きすることができありがたかった。
- ・本学が実施していくSULAにもとても参考になるお話でした。
- ・理念、プロフェッショナル意識、何が重要なのかを示していただいたと感じています。ありがとうございました。
- ・大学の理念を根底に、教員・職員・学生と協働するチームワークの良さを実感できた。
- ・ICUの事例をきき、APCについてよくわかった。
- ・学修支援について、非常に明確な説明をありがとうございました。
- ・ICUの教学システム、アカデミックプランニング・センターの運営について。
- ・教員・職員・学生と三者共同で成果をあげている大学、部署の事例を知ることができて参考となりました。
- ・APCにおけるアドヴァイジングが支援ではなく、教育であるという意識をもって行われていること。
- ・プランニングの重要性、大学全体の方針とのリンク、専門職員の大切さ。
- ・支援ではなく、「教育」ということ。
- ・学修支援というものが具体的にどんなことをするのか、ということがよくわかりました。
- ・モチベーションを持ち続けることの大切さに気付きました。
- ・学修支援における学生生活用、組織形成の方法。
- ・アカデミックアドヴァイジングという専門領域があることを初めて知った。
- ・熱のこもった講演ですばらしかった。学修支援についてのイメージがわきました。
- ・ICUではアカデミックプランニング・センターをはじめ、専門的な部署が多数あり、連携して学生を支援されていることがわかりました。大変参考になりました。

次頁に続く

- ・ICU の理念、アドヴァイジングについて。テクニカルライティングとは全くべつのサポートということ。
- ・学生スタッフの運用について
- ・学生との協働の仕方
- ・ICU さんの先進的な学生支援については全てが新しく、とても役に立つお話でした。
- ・APC の取り組みがよく理解できた。どのような形で本学に活かせるかを職員で検討したい。
- ・ICU の学生の学習計画の自由度の高さとそのためにもアカデミックプランニング・センターの重要性がよくわかりました。
- ・学生スタッフ IBS の活動や位置づけが大変新しい情報として参考になりました。
- ・学生にアドヴァイジングに参画させることは本学でも実行すべきだと思った。(SULA の取り組みへ)

## 2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・IBS 立ち上げに到るプロセスも具体的に伺いたいです。
- ・予算、IBS の採用方法。
- ・支援と教育の違いはよくわかりませんでした。
- ・どのくらいの経営規模でセンターが運営されているのか。(予算規模など)
- ・特にありません。有難うございました。
- ・大学院生の運用について。ただし、アドヴァイジングに限るのであれば、たしかに不要かとも考えた。
- ・教員がどう見ているのか。教員との関係。
- ・IBS を採用する際のポイントや、3年間皆継続されるのかなども、伺えるとよかった。⇒質疑応答の中でお話が伺えました。

## 3. 今後もアカデミック・リンクではセミナーやシンポジウムを企画していきます。そこで、取り上げてほしいテーマや講師があれば、お書きください。

- ・ラーニングコモンズの運営 (ソフト面について)
- ・ラーニングコモンズの分析 (成果面について)
- ・ラーニングコモンズにおける学習、アクティブラーニングを促進、発展させる方法
- ・授業改革や学修支援の必要性とあり方
- ・学生の探究的な学習を促進するための取り組みやしなひ (大学図書館や、大学の授業の中で等)
- ・ラーニングコモンズ設置は進んでいるので、それを一歩先に進めている事例を紹介してほしいです。
- ・社会人 (特に退職後の人たち) が大学・大学院に入学している現状の把握について。
- ・12/7 (月) のシンポジウムにも参加させていただきます。その際 ALPS プログラムの全容 (またはプラン) について伺いと嬉しいです。
- ・内容は ICU の理念を前提とした取り組みであった。ICU さんはかなり特別なカリキュラムを組んでいらっしゃるようですので、他の“一般的な”カリキュラムの大学の事例があれば聞いてみたい。
- ・ラーニングコモンズの事例 (導入の効果→効果的な運用のためのノウハウ等)
- ・アカデミック・リンク・センターを是非見学したい。(機会を設けていただければと思います。)
- ・ALPS プログラムの「新しい教育の開発・企画力」の点に興味があります。これらに関してどんな取り組みを考えているか紹介してほしいと思います。

4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・今までに何回か参加させて頂きましたが、いつも得るものが多く刺激を受けています。どうもありがとうございました。
- ・小林先生、大枝さまの中身の濃いお話ありがとうございました。
- ・とても貴重なお話をありがとうございました。
- ・学修支援というものが、何をどこまでやるものなのか、ということがわかり良かったです。
- ・学習支援の一つの在り方として非常に参考になった。
- ・事務畑と研究畑が出会う場、組織が今後必要なのだと思った。その際、学生も、学部生だけでなく院生（修士・博士）も参画する方が良いだろう。
- ・講演の内容はもちろん、質疑応答でも具体的なお話を伺うことができ、大変参考になりました。ラーニングコモンズ系の業務は先進的なため、担当職員同士で集まる機会が少ないので、今後もこのような場を作って頂けると嬉しいです。有難うございました。
- ・長く質疑時間をとっていただけたのが、大変良かった。
- ・楽しく学ぶことができました。

5. 次の（１）、（２）について、該当するものに○をつけてください。

- (1) a. 学外から参加 23名 b. 学内からの参加 9名
- (2) a. 学生 2名 b. 教員 4名 c. 大学職員(図書館職員を除く) 11名 d. 図書館職員 11名  
e. 出版関係 0名 f. その他 1名(回答なし3名)

6. セミナーを何で知りましたか？(複数回答あり)

- a. Web(アカデミック・リンク・センター) 4名 b. Web(図書館) 1名 c. Web(千葉大学) 2名  
d. 図書館内電子掲示 0名 e. ポスター 0名 f. センターからのメール 11名  
g. Facebook・Twitter 1名 h. その他 13名(部局からのメール、国大図協、私大図協からのメール等)  
(回答なし2名)

千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前：( )

ご所属：( )

電子メールアドレス：  申込時に申請したもの  それ以外( )

ご協力ありがとうございました。

※12名が新規に継続的な情報提供を希望